

## 『世界の絶景さんぽ』

H. I. S / 著 二見書房 (2014年)

行ったことのない場所を旅して絶景が見てみたい！そんな気持ちを持っている人におすすめの本です。世界中の絶景の写真がたくさん掲載されていて、その場所に行くのに必要な時間や経費のこと、おすすめのお菓子や飲み物の紹介、現地の情報などのコラムもついています。旅行の計画を立てたり、美しい景色の写真をながめるだけでも楽しい気持ちになります。絶景が出てくる本や映画の紹介もあるので、そちらは自宅でも楽しめますね。



## 『シャクルトンの大漂流』

ウィリアム・グリル / 作 岩波書店 (2016年)

20世紀初頭、アーネスト・シャクルトン<sup>ひき</sup>率いる南極大陸横断探検隊は、圧倒的な雪と氷に船ごと南極海に閉じ込められてしまう。17ヶ月間にもおよぶ過酷な旅。救命ボートで嵐の海を千数百キロ、極地の山岳地帯を36時間で踏破、絶望の淵にあってもけして希望を捨てず、28人の隊員全員が帰還。すべて実話だ。隊員との絆を色鉛筆の温かさで、厳しい海を幾何学<sup>いざ</sup>模様<sup>か</sup>で表すところは、心憎いほど美しい。絵本とバカ<sup>とりこ</sup>にすることなかれ、十二分に虜になる。

## 『ときどき旅に出るカフェ』

近藤 史恵 / 著 双葉社 (2017年)

住宅街の一角にあるカフェ・ルーズ。奈良瑛子<sup>ならえいこ</sup>はここでかつての同僚・円<sup>まどか</sup>と再会する。そのカフェは苺のスープやアロス・コン・レチェというお米のデザートなど円が世界を旅しておいしいと思ったものを提供するカフェだった。変わったものに違和感を覚えるのは最初だけ、瑛子にとってカフェ・ルーズは日常になっていく。瑛子と円の周りで起こる小さな事件を解決していくやさしい物語。

## 『明日行きたくなる

## 世界でいちばん素敵な場所』

一迅社 (2018年)

全ページフルカラーの美しい写真で構成されたこの本は、世界でいちばん〇〇な場所を紹介しています。「世界でいちばんひまわりが咲く国」や「世界でいちばん恐竜の化石が眠る土地」、「世界でいちばん広大な湿地帯」などが、実際に旅行する際のアクセスやベストシーズンとともに紹介されています。色彩鮮やかな写真ばかりで眺めているだけでも癒し効果がありそうです。世界でいちばん、どこに行ってみたいですか？



## 『離島ひとり旅』

大島 順子 / 著 辰巳出版 (2018年)

ひとり旅ってなんだかハードルが高いですよね。まして離島なんて…。この本の作者は思いつくままに行動できる自由さと、ひとりだからこそ感じられる知らなかった文化や島の人の人間味を私たちに伝えてくれます。そして、豊かな自然が見せてくれる不思議な景色と絶景。雨がたまってハート形になる池。潮の満ち引きで湯加減が変わる海の中の温泉。リアル鬼ヶ島！ハードルが高い離島の旅をまずこの本で楽しんでください。



## 『ゆめみるハワイ』

よしもと ばなな / 著 世界文化社 (2012年)

著者が何度も訪れたハワイについてのエッセイ集です。ハワイとはどんな人がたずねても、それぞれの樂園を見せてくれる懐の深い場所なのだそうです。どうしても旅行ではアクティビティや名所めぐりにショッピングなど予定を詰め込みがちですが、ゆったりと過ごすのもいいのではないのでしょうか。著者と友人とのやりとりやフラダンスの先生への尊敬の念など人への思いやりも感じられるエッセイで、このエッセイを読むと優しく穏やかな気持ちになります。